

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価委員 山下正路

1 教育委員会

守谷市の教育目標を「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指す」と掲げ、全ての子どもに身に付けさせるべき、最も重要な事項をグランドデザインで「世界で輝く人づくり」を表題として、分かりやすく、今の社会生活を生きぬく力をつけるための、必須の5つの教育プランで明確に提示している。その目標を達成するため「守谷市の特色ある取組」として7つの項目を紹介し、教育行政方針は子どものことを大事にした人づくりに邁進している意気込みが感じられる。

さらに、具体的な取組として、守谷市保幼小中高一貫教育として「きらめきプロジェクト」で5つの方針を提示している。立ち上げから3年目に入り、中学校区ごとにそれぞれの特色を出しながら進められている。多種の経験をした児童生徒は、社会的対応力を身に付け、さらに個人的にも大きく成長し世界で輝く人となることを確信している。

全国的に教育に関する諸問題が多い中、文部科学省は教育委員会制度の改正を図った。平成27年4月1日施行で、4つのポイントで示してある、1つは「新教育長」の設置、2つ目は教育委員会のチェックと会議の透明化、3つ目は「総合教育会議」の設置、4つ目は首長が策定する「大綱」である。

守谷市教育委員会では、今年度も30件の審議が行われ、さらに市内の小中学校及び事務局各課の状況報告を基に事務局と連携して真剣な議論を交わして政策が進められている。諸問題の課題を抱えている教育委員会もある中、当市では地域の民意を代表する首長との連携も図られ、学校現場においても、その狙いが浸透し教育目標の達成に向け努力している状況が多々見られる。新教育委員会制度になっても、今まで培ったことを更に継続・深化されることを願う。

2 学校教育・指導室事業

・教育環境の整備・充実

I C T教育が進化している時代、各小中学校に指導者用タブレット端末369台を配置し、教職員のI C T活用指導能力を図っている。さらに、全校の普通教室に電子黒板を配置し、これは、資料提示性に優れており多くの教科指導で活用され、分かりやすい授業として好評である。I C T環境整備のためには、多くの財源も必要になるであろう。

学校生活を快適に過ごすため、トイレ洋式化改修工事が進められた。エアコンの設置や校舎改修工事に伴い障害者のためのバリアフリー化されるな

ど、教育効果を図る環境が着々と進められている。全学校の耐震対策も100%となり、大地震の際にも安心・安全な環境になり、子どもの身を守ることができる。

防災訓練に合わせた小中学校児童生徒引渡し訓練の実施、各学校に青色パトロールや防犯カメラ等で、児童生徒や学校内外の危機管理体制が十分図られている。

3 学校教育プラン

・ステップアッププラン(確かな学力の向上)

各学校ともに課題を明確にし、さらに教職員で共有し、児童生徒の学力向上を図る手立てを考えた施策が見られる。授業研究や校内研修、さらには外部講師の招へいや教科担任制等を取り入れ、授業の重要性を認識した「分かる授業・楽しい授業」を展開している。ある小学校のアンケート調査から楽しい授業と応えた児童は83%いた。中学校でも授業内容は理解できている82.1%、授業は楽しい71.0%と数値指標で表れている。大半の児童生徒が授業内容を理解し楽しい授業に親しんでいると思われる。しかし、全ての児童生徒が理解し、楽しい授業とはいえなく数パーセントの児童生徒は苦慮している。教育委員会では、二極化現象の対応と更なる学力向上に向けて、学習支援ティーチャーを小学校31名、中学校10名、社会人TTを2名配置した。より多くの指導者スタッフで手厚い指導をし、生活習慣や学習習慣をきちんと低学年から身に付けさせる配慮がなされている。

今年度も、「茨城県学力診断テスト」の結果は県平均を大きく上回り、素晴らしい成果である。特に、平成25年度小学校6年生時は県平均11.5ポイント上回っていて、さらに翌年の中学1年生時は33.6ポイント上回っている。小学校から中学校の進級時には、中学校の生活現状になかなか慣れず戸惑う生徒が多く見られるが、これだけの上昇傾向は、素晴らしい進歩の状況である。これも、当市で推進している小中一貫教育「きらめきプロジェクト」の成果であると思われる。家庭学習のてびきを小学校・中学校用と作成され、保護者と連携を図り、家庭学習の重要性や効果を問いかけ学力向上を更に図ろうとした素晴らしい取組の成果である。

・ハートフォーヒューマンプラン「豊かな心をはぐくむ教育の推進」

道徳教育の推進に力を入れている学校が多く見られる。道徳授業を重視して道徳観を身に付けさせようとする意図があり、先生方は研究授業の研さんを積み重ねている。保護者を巻き込んで励ましの言葉をもらい、ゲストティーチャーを招へいしての工夫された授業が展開されている。友達の良いところや、自分の良さを発見させようとして人間関係の構築を図っている。道徳の授業を通して、「友達の良いところを見つけられた」88%の回答があっ

た学校もあった。中学校では基本的な生活習慣の確立を図るために、いろいろな施策を学校独自で行っている。生徒の活動を前面に出して「いじめ防止フォーラム」や小学校や高校、地域の方と連携を図っての「あいさつ運動」やクリーン作戦等の環境教育施策を生徒会にリーダーシップを取らせながら、自主性を引き出して、学校生活を楽しく過ごさせる意図がうかがわれる。各中学校ではQ U調査を年2回実施し、資料を生かして生徒の実態把握に努め、教科・特別活動・生徒指導と多方面で生かされている。

近年は、悩みを持つ子やコミュニケーション能力が弱く、集団生活に抵抗を感じる子どもが増えている傾向にある。その実態として小学校1, 109件、中学校433件、適応指導教室で1, 007件、市教育相談室で549件と、相談活動が多く行われ、子どもの心の問題に対応している。スクールカウンセラー、心の教室相談員、教育相談員、適応指導教室指導員、家庭教育相談員等の充実を図って、一人でも多くの子どもが学校を好きになって、友達と遊び勉強することが楽しいと思うようなたくましい子どもになってほしい。

平成30年度から道徳の教科化が予定され、文部科学省では準備に入っている。このため、教員の指導能力は高めなければならないし、また、学校現場もその準備や対応を考え、質の向上を図らなければならないであろう。文部科学省では、大きな課題は「子どもが身に付けた道徳性をどのように評価するか」であると言っている。5段階の数値評価ではなく、記述式の評価をすることは決まっている。当市では、道徳教育推進委員会を立ち上げ、その準備を始めた。指導室のリーダーシップの下に、スムーズな移行ができると確信しています。

・ヘルス&フィジカルプラン(健康と体力をはぐくむ教育の推進)

各小学校では、平成25年度の体力テストA+Bの達成率が県の平均より下回っていたために、体力向上に視点をおいて取り組んでいる。授業に工夫を凝らして日常から腕立て伏せやスクワットを行い、球技を盛んに奨励し、投げる力の向上や持久走や縄跳びで走力や持久力を高める工夫が見られる。健康教育にも、各学校の工夫された取組が見られる。食育についても、部活動の生徒が疲労回復や運動に必要な栄養バランス良い調理をし、自ら考えさせる効果的な実習が行われている。調理実習でも外部企業による出前授業を行い、ゴミを出さない・資源を大切に使う環境に配慮した授業が行われている。

防災の日に合わせて、市と共催で一斉の防災訓練が行われ、保護者の引渡し訓練も同時に行われた。近年は予想もできない自然災害が多々見られる。東北大震災や昨年の本曾御嶽山の噴火、9月の鬼怒川氾濫と身近なところでも起きている。何時このような自然災害に遭遇するかも知れない。日頃から

危機管理に対して、自分の身は自分で守る指導と諸準備をしておく必要がある。

- ・ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

平成13年度から各小中学校にALTを配置し、「話せる英語」の取組を積極的に行ってきた。その成果は、英語活動・外国語活動において工夫された取組がなされている。指導方法等の研修を積み重ね、多くの英語の機会に触れさせている。児童アンケートから「英語は楽しいか」の質問では、93%の児童が、また「英語を話せるようになりたいか」の質問では、91%の数値が示されている。多くの児童が英語に楽しく関わり、話せるようになりたいと思っている。「話せる英語」の目標はおおむね達成している。これからは、ますますグローバル化する社会になるので、将来は世界で活躍できる人になってほしい。

情報教育の推進とコンピュータ活用では、各学校で工夫された授業が展開されている。電子黒板の効果的活用を図る授業や、プレゼンテーションソフトを活用して「表現する・伝える」力を育てる指導の工夫など、多くの研修を重ねながら進められている。「ネットいじめ」も大きな問題になっている。中学校では、情報モラルの指導は工夫されて行われているが、小学校での携帯電話等のマナーやルールなどの指導不足のように思われる。早い時期から保護者を巻き込み、正しい使い方を身に付けさせることが必要である。

- ・パートナーシッププラン(開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携)

3年目を向かえた保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」も、それぞれの中学校区を中心としてプログラムを作成し基盤ができつつある。生徒と児童の行事交流はもとより、小中教師の乗り入れ授業、中学生が小学校に訪問しての学習ボランティアやキャリア教育の発表など、各中学校区で学校・地域の実態を把握し、できることを着々と進められている。「学びのプラン」、生活・学習目標とスキルを9年間の発達段階で分かりやすく表してある「家庭学習のてびき」も小学校・中学校ごとに作成され、子どもはもとより、保護者にも大いに参考となる資料である。

特色ある学校づくりの推進では、地域の社会人ボランティアを有効に活用し、地域のお年寄りや保護者・環境保全活動組織、町づくりの会、学区の住民等々多くの地域の力を借りて推進している。スクールサポーターを積極的に活用している学校もある。登録者の活用状況100%、学習でのサポート活用は83%と意欲的に協力してくれる地域の方々が多いことに感慨無量である。

4 給食センター事業

各学校では、食育の指導を積極的に進められている。学級活動や給食の時間を利用して、栄養士や栄養教諭から食習慣の重要性を指導している。

部活動の生徒と一緒に運動に必要な栄養のバランスを考えさせる調理実習に参加している学校もある。「給食だより」や「栄養指導資料」を学校や保護者に配布して、教育の一環としての学校給食の役割を十分果たしている。また、給食センターの見学会や試食会を盛んに実施し、保護者への食育の啓発もすばらしい。

ますます、食物アレルギーを持つ児童生徒が増える傾向にある。その対応として、保護者に献立明細(成分表)を配布して、各献立の喫食可否と2献立制を活用した別メニュー提供の希望を確認するために、保護者から給食確認票の提出を受けている。仕事は増え大変であるが、対応食をできるだけ可能な状況で実施していただき、安心でおいしい・楽しい給食の時間にしてもらいたい。

安心・安全な学校給食については、調理ドライ運用を徹底し、手洗いの徹底、用具の消毒等、食中毒防止に最善の注意を払って推進されている。給食センターは、昭和59年に建設され30年以上使用されている。施設や設備の老朽化で故障も頻繁でその対応も大変だと推察する。突然の故障で給食の休止も危惧されるので、日頃から機具の点検等に配慮して、安定した給食と安心・安全で楽しい給食を提供できるように願う。

5 生涯学習・社会教育事業

- ・豊かな生活を目指した学習機会の提供・充実と人材バンクの活用

守谷の自然愛護、郷土愛の心を育てる狙いで、春と秋の2回自然観察会を実施し、多くの市民に自然と親しむすばらしい機会ができています。

公民館講座・教室事業は、中央公民館をはじめ5つの公民館で延べ174回の講座が開催されている。近年はシニア時代に入り、地域の公民館の施設利用は頻繁に行われ、多くの講座を楽しみにしている方々は増加傾向にある。当市では、運営を民間に委託して、より活性化を図ろうと心掛けている。多くの利用者が満足でき、高齢者も生きがいになるような交流の場になれば良い。

- ・学校、家庭、地域社会の連携による教育の推進

近年は、健康志向も高まりスポーツを通して仲間づくりやメタボ対策で体を動かしスポーツに親しむ人の機会は増えてきている。民間等の施設も増えてきている状況であるが、気軽にお金をかけなくても身近で行える場所も大いに必要になってくる。当市では、学校体育施設開放事業として小中学校の施設を開放し、125団体、2,285人が登録され、常時スポーツに取り

組み、健康増進や体力向上のために活動している。今後、ますますスポーツ愛好家は増え、運動できる場所の確保が必要になってくるであろう。

子どもを育て健全な人材育成を図っていく大きな柱は、学校・家庭・教育の3つである。近頃は、家庭の教育力が低下傾向にあると言われて久しいが、なかなか家庭の教育力の向上は期待する程のものではなく、学校現場でもPTA活動の活性化や親父の会を発足して、地域教育力や親の家庭教育力を高めようとしている努力はうかがわれる。

さらに、家庭教育講演会や講座は、保護者間のコミュニケーションを図り、子育てに関する情報を交換する場であって、子育て中の親にとっては良い勉強の機会である。多くの講演・講座等を開催し、多くの子育て中の親が参加して、親としての教育力を高める機会にしてほしい。

・学習活動・芸術鑑賞の場の提供と公民館活動の推進

芸術祭の開催、コンサート等の大規模支援制度、夕べのコンサート、守谷市美術作家展、もりや夢の舞と響、公民館まつりなど、芸術文化活動成果発表の場を設け、参加者の学習意欲向上、来場者の学習機会参加促進を図ることができている。

・健康づくりの推進とスポーツ活動の充実

平成27年度にスポーツ行政を進めるスポーツ庁が発足した。その長官には、オリンピックの金メダリストで背泳ぎのバサロスタートで有名な鈴木大地が就いた。もちろん、2020年の東京五輪・パラリンピックに向けた諸準備と思われるが、これからの時代を見通した健康増進やスポーツの推進にも力を入れてもらいたいと思う。

文部科学省の体力・運動力調査によると、子どもの体力は1985年度頃をピークに低下している。1週間の総運動時間が120分未満の小学生は男子が13.1%、女子は27.3%総運動時間が多くなるほど、人数は少なくなる傾向であった。スポーツ少年団で活動するなど運動をよくする一部の層と、あまりしない多くの層との間で運動能力の差が激しいという実態がある。スポーツ庁と各市町村で連携を図りながら、子どもの体力向上にも目を向けた取組をしてもらいたい。

・郷土愛と文化財の保護・周知

市民に郷土の歴史や先人の残した文化財遺産を管理・保護して、市民に大いに周知を図ってもらいたい。

・放課後子どもプランの充実と児童の安全・安心の確保

児童クラブと放課後子ども教室事業を一体化し民間業者に委託したことで、専門性の高い指導員を確保し現場の対応が迅速にでき、子どもには伸び

伸びた家庭的な環境で過ごすことができている。

6 図書館事業

前年度の運営状況を検証し、市民の意向・意見を確認し市民の求める運営を心掛けようとしている。そのような前向きな姿勢が、一日平均貸出者839.8人、年間の市民一人当たりの平均貸出冊数が13.3冊と県内でもトップクラスに位置し、市民の目線に対応し資料をいつでもどこでも迅速に提供できるようにできる環境づくりに努めていることが要因である。

各種の行事等を市民のボランティア活動を通して、市民と共に一緒に運営している。「読み聞かせ、本の修理、音訳テープ・点字本の作成」等を積極的に行っている。登録団体・サークル数は20団体に及んでいる。おはなし会が年間105回、本の修理が週3日と市民ボランティアの活動は、守谷の図書館運営には大きな支援となっている。

今後も、市民ボランティアを育成し、ますます図書館が市民のための図書館となるように願う。

< 総 括 >

教育委員会全体の評価について

守谷市の教育予算は、子どもの健全な育成を図るために環境整備に全力で力を注ぎ、「新しい時代をたくましく生きぬく人づくり」の目標を達成させる基盤となっている。耐震工事の100%や校舎の増築・改修工事、トイレの洋式化改善、小中学校の施設維持補修事業、安全に通学できる通学路の整備、授業に集中できるエアコンの整備も先進的に行われ、児童生徒の安全と安心、そしてより良い教育効果を求める上での環境づくり惜しみない力を注いでいる。

さらに、指導事業においても新たな学習形態を構築するために、指導者用のタブレット端末として教員相当数と、全教室に電子黒板の配置等、情報教育環境を整備して児童生徒の学習意欲を高めようとしている。また、個に応じた教育を重点化して、少人数・TT・習熟度等の授業を積極的に行っている。そのための社会人TT・学習支援ティーチャー配置事業は、総合的学力向上と共に個にも学力を確実に身に付けさせ、一人一人の子どもを大事にすることで、児童生徒は学校や授業が楽しいと感じる子どもは確実に増えるであろう。小学校に英語教育が導入されて間もないが、守谷市は平成13年度から小学校にALTを配置し、先進的に「話せる英語」を身に付ける指導を行ってきた。その効果もあり、児童生徒の英語に対する関心は高く、英語活動や授業も活性化されコミュニケーション能力も高まり、国際化する社会で活躍できる人になるであろう。保幼小中高一貫教育「きらめくプロジェクト」3年目を向かえた。その基盤もゆるぎないものができたのではないかと推察

する。「学びのプラン」，「家庭学習のてびき」，「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」，「守谷市小中一貫情報教育指導計画」，「守谷市小中一貫道德教育指導計画」，大きな柱が出来上がったことは，これからの守谷市の教育力向上には欠かせないものになったのではないかと思う。指導室のリーダーシップの下，先生方と共有して，更なる有効活用方法を検証・研究を積んでいたきたいと思う。特に，平成30年度からの道德教育の改革も進められ，いじめ問題や自殺，心の育ち，公德心の不足等が教科化のきっかけと言われている。この大事な移行にも小中一貫教育の指導で進められることは，心強くより良い成果が出ることを願う。

各課各事業においては，目標達成に向けた施策が職員一丸となって努力されたものであると思う。その結果が多くの子民の声やアンケートとして示され，おおむね目標は達成されている。特に，市民と共に行政を治めている場面は多くで見られる。市民と共に協働でという意図が強くあり，市民のボランティア精神が多くを事業を支え市民の生きがいにもなっていることが印象深いことである。「これからも市民と共に」，の精神で推進されることを願う。

守谷市は，新興都市としてますます発展していき，人口増加に伴って教育環境も大きく変化する可能性があるかと推測する。今まで立派に培われた基盤を継承・深化させ盤石の体制で邁進されて，将来は世界にはばたく人材や，守谷はすばらしい故郷で郷土を愛する人材の育成を図ってほしい。